

社会的活動報告

季節感あふれる壁面製作

幼児教育学科 2回生 上中 和香奈

私たち松川ゼミでは、主に「季節感あふれる壁面製作」「小児がんについて」の活動を行ってきました。まず、小児がんの子どもたちのために季節感あふれる壁面製作を行いました。病気と闘う子どもたちに少しでも季節の移り変わりを感じてもらえるように季節に合わせた壁面を毎月製作し、病院へと届けました。壁面には、折り紙を取り入れたり、紐やリボンを使ったりなど立体的にして工夫しながら作りました。



小児がんについて、7月16日に、「公益財団法人 がんの子どもを守る会」の荒木さんのお話を伺って、小児がんについて調べました。小児がんは希少がんで治療が難しく、昔は亡くなってしまう子どもの病気とされていました。現在は約7割の子どもたちが治療を終えることができるようになってきたこと、子どもは治療後の人生が大人と比べて長いこと、患児家族の悩み・不安を軽減することも重要な課題であること、小児がんへの関心が少ないことなどたくさんを学びました。小児がんの治療は普通のがんよりも発症がとてもなく少なく治療が難しく、治療中や治療が終わった後の支援、また小児がんの家族への支援をすることが大切だと思いました。また、小児がんへの関心が少ないのは残念なことだと感じました。小児がんへの関心が少しでも広がるようにできることはないか考えていたところ、ゴールドリボンツリーの啓発活動があることを知りました。毎年世界中で30万人もの子どもたちががんと診断されて、病気と闘っています。こうした

厳しい現実を知ってもらう目的で、国際小児がんの会は、毎年2月15日を「国際小児がんデー」とし、2002年以来、世界中の団体と連携してさまざまなキャンペーンやイベントを実施しています。小児がん支援のシンボルであるゴールドのリボンをクリスマスツリーなどに結び付け展示することで、小児がんを知るきっかけを作りたいという目的で設置しています。「国際小児がんデーキャンペーン2021ゴールドリボンツリー」の活動として、私たちは、小児がんの子どもたちが少しでも元気になってほしいという願いを込めて、仁愛女子短期大学の玄関ホールにゴールドリボンツリーを設置しました。

松川ゼミでの活動を通して、2020年7月分から2021年5月分まで、小児がんの子どもたちに季節を感じられる壁面作りを行い、小児がんで入院している子どもたちに季節の変化を感じてもらえることができました。小児がんについて「がんの子どもを守る会」の荒木さんの話を伺うことで理解を深めることができました。また、家族支援などについて学び、私たちにもできることがあるのではないかと考えました。小児がんについて調べたり、壁面を作ったりしたことを通して、知識が深まっただけでなく私たちにもできるボランティア活動があることを知り、これからもできる範囲で参加したいと思いました。私自身、ゼミで活動を行って一人で壁面製作を行ったことや、啓発活動に参加したことなどたくさん学ぶことができ、よかったです。

